

# いしぶみ 阿寒の石碑

予備調査の概要

阿寒郷土歴史研究会  
2005.12.20 発行

## はじめに

明治 20 年（1887 年）阿寒の地に和人が住み開拓が始まってから、2007 年には 120 年を迎える。この発展した郷土を築いてこられた先人の苦難の歴史を、地域に建てられている石碑を通して訪ねて見ることも意義のあることと思う。

石碑は、そもそも地域の歴史を伝える大切な有形の文化財であり、重要な地域の財産である。碑文に込められた当時の人々の思いや時代背景、そして建てられている場所の意味などをあらためて記録保存し、後の人々に伝えたいと考えたのが、調査のきっかけである。

今回、予備調査により新たに碑が確認されたこと、刻まれた自然石が朽ちて碑文が判読できなくなっているものがあること、史実について聞き取りしたくとも関係者はすでにこの世になく、正確な情報を記録することは大変困難な状況にあること、などが判明した。

この長い歴史の中で建立された石碑の概要については、これまでに阿寒町史（1966）、阿寒町百年史（1986）、阿寒川水系総合調査

（1993）などで一部記録されてきたが、今回の調査では、その後に建立されたものも含め、可能な限りすべての碑を確認することに留意した。

その結果、新たに確認できたもの 9 基を含

め、予備調査の時点で総計 72 基となった。

これまでの調査で確認された最古の石碑は、大正 9 年（1920）に建立された「高松豹一君記念碑」で、地域で功績のあった巡査の慰靈碑である。この碑は、これまでに一度も調査記録されたことのない碑である。また最も新しく建立されたのは、平成 15 年（2003）に建立された「西徹別小学舎の碑」で学校の閉校記念碑である。なお、平成 17 年の予備調査後に建立されたものがあるが、これらは本調査の報告に追加したい。

地域別に建立の場所を分類すると、阿寒本町 18 基、徹別 12 基、仁々志別 10 基、雄別・布伏内 8 基、阿寒湖温泉 24 基で、阿寒湖地区が最も多いが、これは新四国八十八か所霊場が 15 基建立されていることによる。

予備調査は、碑の場所の確認と碑文の記録および写真記録を中心に、平成 17 年 5 月から 9 月までに延べ 5 日間行い、会員の佐藤照雄と伊東智が担当した。なかで碑の多くが新たに確認できたのは、伊東の碑によせる不斷の熱意と努力による結果である。

なお本調査は 2006 年から行い、それぞれの碑の歴史的背景や規模、さらには碑文などのすべてを調査記録し、（仮称）「阿寒いしぶみ物語」として、DVD および冊子にまとめる予定である。

## I. 開拓記念の碑

### 1. 前田正名胸像



前田正名は明治 39 年（1906）約五千ダルの山林の払い下げを受け、阿寒湖畔の開拓を始めた。自然を護りながら阿寒を観光開発したその功績を讃え、昭和 36 年（1961）観光案内所前の公園に建立された。

碑には前田正名が詠める「後の世の春を頼みて植えおきし 人のこころのさくらをぞ見る」と刻まれている。

### 2. 高松豹一君記念碑



高松豹一は碑文によると、青森県中津軽郡清水村に生まれ、大正 3 年（1914）北海道巡査として当時の阿寒村に駐在している。そして後の大正 9 年に、この地において 39 歳の若さで病没している。この碑は何らかの功績を讃え大正 9 年に建立されたものだが、その理由は碑に刻まれていない。旭町の西来寺境内に建てられ、65 名が発起者として刻まれている。

## 3. 殉公碑



阿寒町が町制施行と開基 70 年を記念して昭和 32 年（1957）北町の鶴見が丘公園に建てられた。戦没者、殉職者、功労者の靈が祀られている。昭和 61 年（1986）に開基百年事業の一環で改築された。

### 4. 青年の像



阿寒の若い青年たちが情熱をもって新しいマチづくりに取り組んでいる姿を碑に象徴しようと昭和 48 年（1973）、新築の役場庁舎前広場に建立された。青年の像建立委員会（松橋主幸委員長）には町内の青年 6 団体が結集した。

### 5. 忠魂碑



戦没者の靈を祀るため、遺族会が昭和 52 年（1977）神社境内に建立した。後の平成 6 年（1994）に改築されている。碑には 87 名の戦没者の氏名などが刻まれ、遺族会は毎年 8 月に戦没者慰靈祭を執行している。

#### 6. 雄別鉄道記念碑



雄別鉄道は大正 12 年（1923）、釧路と雄別炭山を結んで開業したが、炭鉱閉山に伴い昭和 45 年に廃止された。記念碑は 10 年後の昭和 55 年（1980）に阿寒駅のあった場所に建立された。碑の正面に機関車の車輪が刻まれている。

#### 7. 阿寒町開基の碑



開拓者の偉業を讃え、その苦闘の歴史を後世に伝えようと、開基百年を記念して昭和 61 年、最初に開拓の鍬が下ろされた富士見町の公園に建立された。碑の形は四世代にわたって築いてきた町の姿と大地に刻み込まれた開拓の鍬を表している。

#### 8. 未来の塔



郷土の未来を担う子供たちの健全な成長を願って、昭和 61 年（1986）開基百年事業の一環で建立された。場所は同事業を記念して造成された鶴見ヶ丘公園の「子供の森」に建てられ、台盤には黒みかげ石に刻まれた各学校の校歌版を、それぞれの学校の方々に取り付けられている。

塔の真下にはタイムカプセル室が設けられ、各学校の子供たちの作品などが収納されている。

#### 9. タンチョウ愛護発祥の碑



昭和 25 年の冬からタンチョウに餌を与え続け、今日の大楽園を築かれた農家の人々を讃え、後世にその業績を永く伝えるために平成 8 年（1996）、阿寒国際ツルセンターの落成を記念して建立された。

碑の背後には、山崎定次郎が餌づけに成功した給餌畑が広がり、側には同時に建てられた犬養孝万葉歌碑がある。

## 10. 紀之丘開基 50 周年記念碑



紀ノ丘地区に開拓者が入植してから 50 年が経ったことを記念して、昭和 48 年 (1973) 紀ノ丘神社の鳥居横に建立された。

碑の正面には建立者として、1 団体 12 個人の名が刻まれている。

## 11. 開拓者 青木光治翁碑



青木光治は大正 6 年 (1917) に岐阜県文殊村から入植したが、部落の有志一同は仁々志別開拓の先駆者としての苦闘の歩みを讃えて昭和 14 年に建立した。碑は最初 26 線の神社前に建てられたが、昭和 50 年に仁々志別小中学校の校庭へ移設された。

## 12. 開拓者 加地良次の碑



加地良次は昭和 3 年 (1928)、愛媛県中曾根村から下仁々志別に入植した。碑は昭和 50 年 (1975) 学校校庭に 88 歳の米寿を記念して本人が建立した。碑の正面には「天壤無窮」と刻まれている。

## 13. 開拓記念碑



青木光治は大正 7 年 (1918) 岐阜県本巣郡文殊村から、有志 7 戸をまとめて仁々志別に団体移住し開拓に従事した。碑は二代目の青木敏が、開拓 75 周年を記念して平成 3 年 (1991)、中仁々志別の自宅前に建立した。碑の正面には青木団体長をはじめ七名の入植者が刻まれている。

## 14. 開拓労苦の碑



安池乙次郎は明治 39 年 (1906)、静岡県南蘿科村から 47 歳のとき知茶布に入植し開拓に従事した。碑は開拓の労苦を偲び、一族を代表して安池順一が昭和 63 年 (1988) 入植の地に建立した。

### 15. 雄別炭礦記念碑



雄別炭礦は大正九年（1920）に創業し、一時は年間 60 万トンの生産量を誇ったが、エネルギー革命により昭和 45 年（1970）企業ぐるみ閉山した。碑は 50 年の歴史を後世に伝えるとともに殉職者の冥福を祈るために、昭和 55 年（1980）有志が期成会をつくり炭礦跡地に建立した。雄別出身者が当時を偲び、同地を度々訪れている。

### 16. 知茶布隧道跡の碑



知茶布地区は明治 30 年頃（1897）から 33 戸が入植し開拓が進められた。知茶布隧道は決起した入植青年 14 名が掘削に参加し、昭和 25 年（1950）85m の隧道を完成させた。

記念碑は青年たちの偉業を後世に伝えるため、老朽化した隧道が撤去されたのを機に平成 10 年（1998）阿寒町が建立した。碑は隧道跡地の知茶布側に建てられている。

### 17. 阿寒湖の碑



碑は昭和 63 年（1988）、阿寒湖青宝会が設立 20 周年を記念して建立した。正面には、円形の白みかけ石に阿寒湖周辺の方位と案内図が刻まれている。

### 18. 雄別中学生阿寒湖遭難慰靈碑



雄別中学校の修学旅行生 31 名を乗せた雄別炭礦所有の小型モーターボートが昭和 22 年 10 月 11 日阿寒湖ボッケ付近で沈没し、14 名が犠牲になった。

33 回忌を迎えた昭和 54 年、同窓生（稻沢石雄代表）が建立期成会を組織し、冥福を祈って正徳寺境内に建立した。

## II. 信仰の碑

### 19. 包丁塚 魚鳥供養の碑



阿寒湖温泉の調理師の人たちが、郷土料理の食材となってくれた魚鳥の靈を供養するため、昭和 54 年(1979)観光案内所前広場に建てた包丁塚である。碑文は前田光子前田一步園主が書き、北海道日本料理研究会阿寒湖支部の塚和会が建立した。

### 20. 獣魂碑



開拓の礎となった牛馬の靈を祀るため、昭和 61 年(1986)中央町の家畜共進会場内に建立された。碑は阿寒町開基百年を記念して、獣魂碑建設委員会が建てた。裏面には建立に協賛した法人 4 団体、個人 186 名の名前が刻まれている。

### 21. 馬頭観世音碑



仁々志別原野は大正 7 年(1918)からの入植者の人たちによって開拓された。その開拓に最も活躍した馬に感謝し、その靈を祀るために建立された。碑は昭和 13 年当時の下仁々志別小中学校前庭(現在は集会所)に、長谷川弘、漆原力ナが建てた。

### 22. 馬頭観世音碑



碑は昭和 5 年(1930)入植当時の中心地であった中仁々志別に建立された。その後に、碑の位置は道路改良事業のため、管野一郎宅の道路向かいから約 100m 東側の私道沿いに移設された。

### 23. 馬頭観世音碑



紀ノ丘地区は明治 38 年(1905)福島県などの入植者によって開拓された。碑は昭和 9 年(1934)、紀ノ丘神楽が奉納されている神社の側に建てられた。

#### 24. 馬頭観世音碑



この碑を建立した青田鐵治は、明治 34 年（1901）福島県日之木村から上阿寒の地に入植している。碑は昭和 6 年（1931）自宅裏に建てた。後に移設され台座に上げられた。現在は三代目の武雄が管理している。

#### 25. 馬頭観世音碑



この碑は昭和 6 年（1931）馬主一同によって建てられ、昭和 40 年頃に雄別横山にあった雄晶寺境内から現在地である布伏内の道道沿い（五十嵐昇所有地）に移設されている。当時は五十嵐木材が管理していたが、移設後は隣家の工藤一郎が管理している。

#### 26. 馬頭観世音碑



この碑は大正 11 年（1922）北海炭鉱内・横澤田乙次郎が建立している。北海炭鉱は雄別炭鉱の前身で大正 8 年に設立されている。この碑は No.25 の碑の側に置かれているが、平成 7 年頃に移動したものらしい。

#### 27. 馬頭観世音碑



碑は昭和 3 年（1928）布伏内の旧雄鉄線沿いに建立された。当初は旧雄別鉄道と大正林道の交点近くに設置されたが、木彫工場が建てられた際に、東の山林側に移設されている。碑は、そのとき出土した自然石に上げられた。

## 28. 牛馬頭観世音碑



碑は大正 14 年（1925）、西徹別集会所（旧西徹別小学校）の北側に建立された。

建立者は「徹別一同」と刻まれている。

## 29. 馬頭観世音碑



碑は昭和 13 年（1938）、当時、上仁々志別の光明寺境内に建立された。

仁々志別地区は大正 7 年（1918）の入植者たちによって開拓が始まっている。この碑は下仁々志別に建てられた碑と同時期に建てられたもので、碑には馬の像が刻まれている。

## 30. 馬頭観世音碑



碑は昭和 21 年（1946）徹別中央の徹別種付所（当時・現在の中徹別小学校の北側）に建立された。昭和 27 年に中徹別小学校が移設新築されたことにより、学校跡地（現在の徹別多目的センターの裏地）に移設されている。

碑の台座は旧小学校の奉安殿の基礎部分がそのまま使用された。発起者として、徹別種付所世話人、徹別各部落会、徹別聯合青年団の 3 団体が刻まれている。

## 31. 馬の労苦に感謝の碑



碑は知茶布の開拓者である安池乙次郎開拓労苦の碑の隣に建てられている。明治 39 年入植してから開拓の労苦を共にした馬に感謝し靈を供養するために、一族の安池順一が開拓労苦の碑と同時期の昭和 63 年（1988）に建立した。

### 32. 慰靈碑



碑は平成 5 年（1993）上舌辛の阿寒霊園内に、まちづくりに功労のあった住民の靈を供養するため阿寒町が建立した。

### 33. 地蔵尊



碑は昭和 14 年（1939）中仁々志別の管野一郎宅前に建てられた。この場所は開拓時代の中心地であった。当時、入植した人々は何も楽しみがないことから、部落民が集い弘法大師の碑を祀り、部落 12 戸の団らんの場としていたという。現在は管野一郎が管理している。

### 34. 地蔵尊



碑は昭和 13 年（1938）上徹別の国道沿いに建立された。碑の右側 4 体は大師講、左側 1 体は正覚善童子である。

### 35. 富士之築山記念碑



安藤利右工門は阿寒の最初の入植者で、明治 30 年（1987）のことであった。碑は昭和 6 年（1931）富士見の入植地に建立した。

碑の隣には出身の愛知県から伝承した丸山教を祀った築山がある。裏面に舌辛宣教所長権少教正 安藤利右工門建立と刻まれている。

### 36. 地蔵尊



碑は上仁々志別の元光明寺跡地にあり、建立時期や建立者は不明である。裏面には、清涼童子、光山空芸禪女、信一禪童子、貞光禪童子と刻まれている。

### 37. 獣魂碑



碑は昭和 50 年（1975）下仁々志別の大栄畜産株敷地内に建立された。昭和 48 年創業の同会社が生産している豚の靈を供養するため建てた。

### 38. 慰靈碑



曹洞宗西来寺は大正 8 年（1919）石川県人廣瀬嶺童によって旭町に開基された。碑は昭和 10 年、西来寺境内に建立された。

前面に「慈悲」と刻まれている。発願者は武隈豊次郎ほか 7 名である。

### 39 慰靈碑



碑は昭和 16 年（1931）、上仁々志別の寺院跡に建立されている。

寺院は光明寺といい、曹洞宗定光寺ニニシベツ布教所として、昭和 6 年（1931）に設立された。住職は伊藤俊光、代理は佐藤安左工門、総代は伊藤清巳であった。

### 40. 慰靈碑



碑は昭和 58 年（1983）阿寒湖温泉・正徳寺境内に建立されている。昭和 53 年 1 月、本間家の親子孫が焼死した 5 名を慰靈する地蔵尊である。本間健司が建てた。

### 41. 慰靈碑



碑は昭和 49 年（1974）下徹別の国道沿いに建立された交通安全地蔵尊である。鎌田雪子が建てた。

## 阿寒新四国八十八か所靈場

弘法大師（空海）の旧跡とされている八十八か所の靈場は、四国4県にまたがって存在している。これを模してつくられた八十八か所靈場は、釧路市と弟子屈町および標茶町にまたがり、そのうち阿寒には阿寒湖温泉を中心として9か所に17靈場（一覧は別表）が設置されている。

第一番は西端寺境内（釧路市米町）に、第八十八番は松光寺境内（中島町）に置かれている。石仏は福井県で制作され昭和3年（1928）に開眼式が行われたとされ、88体に大師像を1体をそれぞれに添えて176体とし、さらに不動明王3体、普賢菩薩2体、勢至菩薩1体、馬頭観音1体を加えた183体からなっている。

靈場巡拝は年に一度定期的に行われているようだが、信者だけではなく地域の人々の信仰の対象とされ、供物や花があげられるなど、近くの人によって管理されている靈場もある。

### 42. 新四国八十八か所靈場 第六番



碑は、西阿寒・鶴見が丘公園入口に建っている。

### 43. 新四国八十八か所靈場 第七番



碑は、飽別・飽別発電所入口で国道沿いに建っている。

### 44. 新四国八十八か所靈場 第九番



碑は、阿寒湖温泉1丁目の町道沿いに建っている。写真右から2, 3体目が九番、左から3, 4体目が十三番、左から1, 2体目が十四番の靈場である。

#### 第九番の2体



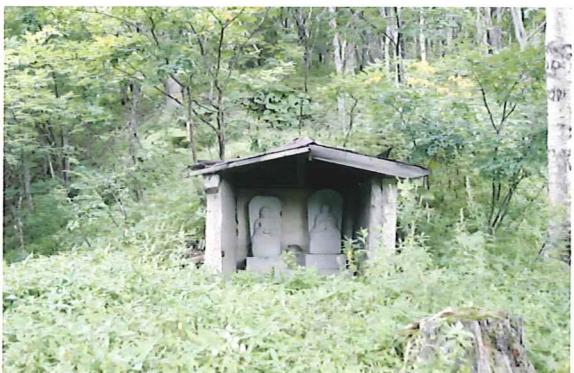
#### 45. 新四国八十八か所霊場 第十番



碑は阿寒湖温泉 3 丁目、正徳寺境内に建てられている。

第十番は左から 1 体目と 6 体目で、離れて置かれている。

#### 46. 新四国八十八か所霊場 第十一番



碑は阿寒湖温泉、雄阿寒ホテル跡地の高い山の中腹に建っている。

#### 47. 新四国八十八か所霊場 第十二番



碑は阿寒湖温泉、滝口水門付近に大木を背に、阿寒湖の湖岸に建っている。

#### 48. 新四国八十八か所霊場 第十三番



碑は第九番および十四番と同じ場所に置かれ、阿寒湖温泉 1 丁目の町道沿いに建っている。

#### 49. 新四国八十八か所霊場 第十四番



碑は第九番および十三番と同じ場所に置かれ、阿寒湖温泉 1 丁目の町道沿いに建っている。

#### 50. 新四国八十八か所霊場 第十五番

#### 51. 新四国八十八か所霊場 第十六番

#### 52. 新四国八十八か所霊場 第十七番



No.50～52 の碑は第十番と同じく、阿寒湖温泉3丁目、正徳寺境内に建てられている。

第十五番は左から1と4体目に、第十六番は左から3体目と右から2体目に、第十七番は右から1体目と4体目に置かれている。

### 53. 新四国八十八か所霊場 第十八番



碑の位置は、阿寒湖温泉で湖畔市街地から約500m釧路寄りに置かれている。

設置当初はマリモ国道の交点から南へ約1kmの雄観林道（旧国道）沿いに置かれていたが、国道改良後（1993年以降と思われる。）にマリモ国道近くの雄観林道沿いに移設されている。

### 54. 新四国八十八か所霊場 第十九番



碑はNo.53の第十八番と同住所で、第十八番から約10m東の方向で、マリモ国道近くの雄観林道（旧国道）沿いに置かれている。

### 55. 新四国八十八か所霊場 第二十番



碑の第二十番から二十三番までの計8体は、阿寒湖温泉の雄阿寒岳登山口（マリモ国道沿い）に置かれている。

第二十番は左から1, 2体目、第二十一番は左から3, 4体目、第二十二番は右から1, 2体目、第二十三番は右から3, 4体目に位置している。

#### 第二十番の2体



### 56. 新四国八十八か所霊場 第二十一番



57. 新四国八十八か所靈場 第二十二番



58. 新四国八十八か所靈場 第二十三番



なお、第八番については当初ピリカネップ付近に置かれていたとされているが、巡拝に不便であるとの理由で、現在の山花神社横に移設されたとのことである。

また、第十五番、第十六番、第十七番の三靈場は当初、釧北峠に置かれたが、その後の国道改良工事(時期は不詳)に伴い、阿寒湖温泉の正徳寺境内に移設されたものと言われている。

III. 学校の碑

59. 二宮金次郎像



像は昭和 14 年（1939）阿寒小学校校庭の国道沿いに建立された。中村薰之助が渡道 20 年を記念して寄贈したものである。後の平成 12 年（2000）、富士見 1 丁目に校舎移転新築・開校百周年を機に、新校舎東側に移転している。台座は新設された

60. 下徹別小開校 50 周年記念碑



下徹別小学校（大正 14 年（1925）創立）の開校五十周年を記念して、昭和 50 年（1975）同校敷地内に実行委員会が建立した。

61. 学舎の碑



下徹別小学校は平成 5 年（1993）阿寒小学校に統合した。碑は閉校を記念して建立された。前面の碑文には「丹頂とともに六十七年」と刻まれている。

## 62. 上徹別小学校記念碑



上徹別小学校は明治 41 年（1908）に創立し、昭和 53 年（1978）に閉校した。碑は開校 70 周年と閉校を記念して、閉校記念協賛会によって建立された。碑の基礎部分にはタイムカプセルが埋められ、正面のプレートには「同窓の絆」1998 年再開、2010 年続再開と刻まれている。

## 63. 布伏内小学校記念碑



碑は昭和 61 年（1986）阿寒町開基百年を記念して、布伏内小学校校庭に建立された。同校のシンボルである樹齢およそ百年のハルニレの木の側に建てられ、教諭であった須藤歳雄が寄贈した。前面に「にれの木は

心のかけはしみんなの大樹」と刻まれている。

## 64. 阿寒小学校記念碑



平成 13 年（2001）新校舎落成と開校百周年を記念して、校庭に協賛会が建立した。前面に校歌が刻まれている。

## 65. 西徹別小学舎の碑



昭和 52 年（1977）に閉校した西徹別小学校（大正 10 年創立）の同窓生が実行委員会を組織して建立した。碑は閉校から 26 年後の平成 15 年（2003）に同校跡地に建てられた。本の形をした白みかげ石には 55 年の足跡が刻まれている。

## IV. 文学の碑

### 66. 松浦武四郎詩碑



松浦武四郎は江戸時代末期の探検家で、安政5年（1858）3月に阿寒湖畔を訪れ、著書「久摺日誌」の中で、阿寒地方の自然について記している。この詩碑は昭和16年（1941）阿寒湖温泉1丁目ボッケ入り口に建立されている。紀元二千六百一年を記念して、釧路北三国有志代表の佐々木米太郎が建てた。

### 67. 石川啄木詩碑



石川啄木は明治41年（1908）に来釧し76日間滞在、旧釧路新聞社の記者として活躍するかたわら、釧路を詠んだ多くの詩を残した。

碑は昭和26年（1951）阿寒湖温泉1丁目ボッケ近くの湖岸に建立された。阿寒湖畔部落民一同が建てた。碑には「神のごと遠くすがたをあらはせる 阿寒のやまの雪のあけばの」と刻まれている。

### 68. マリモの唄歌碑



碑は平成5年（1993）、阿寒湖温泉1丁目の湖岸に特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」保護会が建立した。前面にはマリモの唄の歌詞「水面をわたる風さみし 阿寒の山の湖に 浮かぶマリモよ何おもう マリモよマリモ緑のマリモ」と刻まれている。

揮毫は作詞者の岩瀬ひろしである。石川啄木の碑が約20m雄阿寒岳寄りに建つ

### 69. 松浦武四郎歌碑



昭和16年（1941）、阿寒湖温泉・滝見橋付近（雄阿寒岳登山口）国道沿いに建てられている。建立者はNo.66の歌碑と同様に佐々木米太郎で建立時期も同じである。

碑には武四郎が同地を訪れた際に詠んだ歌「いつまでもながめしは盡し阿かぬ山妹背の中に落る瀧津瀬」と刻まれている。

## 70. 犬養孝万葉の碑



この碑は今日の阿寒タンチョウの里の自然景観が、古代の人々が鶴（たづ）を万葉のうたに詠んだ当時の原風景として残されているという、万葉研究者で文化功労者の犬養孝の推薦によって建立された。碑は平成8年（1996）阿寒国際ツルセンターの落成を記念してタンチョウ鶴愛護会が建てた。

碑の前面に「旅人の宿りせむ野に 霜降らば 吾が子羽含め 天の鶴群」の原歌が、犬養孝揮毫で刻まれている

## 71. 皇太子殿下御歌碑



碑は平成8年（1996）、阿寒国際ツルセンターの落成を記念して、阿寒町が前庭に建立した。碑の前面には皇太子殿下御歌「大空に 舞い立つ鶴の 群眺む 幼な日より わが夢かなふ」と刻まれている。

この歌は、平成3年3月阿寒タンチョウの里をご訪問された皇太子殿下が、雪原に舞う優雅な鶴の群れを観察された深い印象

を御歌にされ、平成5年歌会始の儀において朗詠されたものである。

書家の加藤秋霜が揮毫した。

## 72. 猪狩満直の碑



詩人・猪狩満直は明治31年（1898）福島県好間村川中子に生まれ、27歳の大正14年（1930）4月、阿寒村舌辛原野25線（現・紀ノ丘）に入植し、昭和5年（1930）12月までの5年9ヶ月開墾に従事した。その間、昭和4年に詩集「移住民」を発刊。この詩は、日本で最も早く農民のことば、生活のことばで詩を書き、農民詩の先駆をなした特異な詩人として注目された。

以後、「銅鑼」「至上律」「北緯五十度」に詩を発表し、「農勢調査」「秋の通信」などの詩集を残して昭和13年（1938）4月、多難な40年の生涯を閉じた。



碑は平成10年（1998）10月に生誕百周年を記念して、生誕の地・福島県いわき市に組織された詩碑建立会が、上阿寒23線、

阿寒国際ツルセンター前の農村公園に建立  
した。

詩碑には、代表的な詩集「移住民」の中  
の「種選り」と題する一篇が刻まれた。

碑の文字は満直の三女、小磯住子が揮毫  
した。

## 参考文献

阿寒町史 阿寒町史編纂委員会 1966

阿寒町百年史 阿寒町史編纂委員会 1986

阿寒川水系総合調査報告書

釧路市教育委員会ほか 1993

郷土史 仁々志別 仁々志別開拓七十年史

発行実行委員会 1988

猪狩満直全集

猪狩満直全集編集委員会 1986

本文中の敬称は略させていただきました。

(文責 佐藤照雄)

# いしぶみ 阿寒の石碑

第2次予備調査の概要

阿寒郷土歴史研究会  
2006.12.25 発行

## はじめに

阿寒の長い歴史の中で建立された石碑の概要については、平成 17 年 12 月「予備調査の概要」としてまとめ報告した。平成 18 年は、予備調査の後に建立された2基、及び過去に建立されたもので、新たな情報にもとづき確認できたものについて調査を実施し、第2次予備調査として報告するものである。調査は平成18年(2006 年)6 月 9 日に伊東 智が確認と撮影を、7月 8 日に佐藤及び伊東が概要の調査を行った。

調査の結果、信仰の碑6基、文学の碑1基を確認した。第1次調査を含めると、阿寒町内に建立されている石碑は、次の通りである。

1. 開拓記念の碑	18基
2. 信仰の碑	46基
3. 学校の碑	7基
4. 文学の碑	8基
合計	79基

地域別に建立の場所を分類すると、阿寒本町 22 基、徹別 13 基、仁々志別 10 基、雄別・布伏内 8 基、阿寒湖温泉 26 基である。

なお本調査は、平成 19 年度から継続して実施する予定である。

## 73. (信仰の碑 59) 鎮魂の碑



北泉開発株が 2005 年 12 月、西阿寒 17 線、エゾ鹿牧場内に建立した。

碑の正面には「鎮魂之碑」、裏面には「感謝 平成 17 年 2 月 この地で養鹿にあたり鹿達に感謝の誠を捧げ 社長曾我部喜市が 挿毫 魂の安らかなるを祈る」と刻まれている。

## 74. (信仰の碑 60) 馬頭観世音碑



碑は西阿寒 20 線、木村ヒデ宅前約 50 メートルの林の中に建てられている。昭和 21 年 10 月 17 日に建立されたもので、当時は庭園だったらしく、シャクナゲやアヤメの花が周辺一帯に植えられている。自然石で建てられ、建立者は不明。

#### 75. (信仰の碑 61) 馬頭観世音碑



碑は西阿寒 20 線、荒井宅裏約 30 メートルの山林内に建てられている。昭和 8 年 4 月 17 日建立で、施主は小村義馬、部落一同で、石工は塩地與吉と刻まれている。

碑の両側それぞれ約 1.5 メートルには、直径約 50 センチの山桜の大木があるほか、周辺にも山桜の木があり、建立当時に植えたものらしい。桜の大木は一部枯死しているものの、枝の一部は生き延びている。建立時の人々の思いが偲ばれる。

この地は、小村義馬の所有地だったので、敷地内に建てられていた神社は、富士見の小村宅横に移設されている。移設年は不詳。

#### 76. (信仰の碑 62) 馬頭観世音碑



碑は西阿寒 21 線の橋本宅裏、約 150 メートルの山林内に建てられている。正面に「馬頭観世音菩薩」と刻まれている。昭和 22 年 10 月 17 日建立で、建立者は橋本徳治郎、石工は橋本さんの親族にあたる倉嶋石材店。

碑は白御影石、台座は自然石。

#### 77. (信仰の碑 63) 慰靈碑



碑は紀ノ丘 30 線、中井宅東側の土手に建てられている。昭和 54 年 9 月 13 日に建立されたもので、正面に「延命地蔵」、裏面に「黒部栄子」と刻まれている。

釧路市の白崎建設株が請け負った広域農道の工事中に殉職したとされる。殉職者の氏名は不詳で、建立者の黒部栄子さんは夫人と思われる。

## 78. (信仰の碑 64) 慰靈碑



この碑は阿寒湖温泉の阿寒湖荘庭園内に建てられている。正面には「〇〇清楽」と刻まれているが、〇〇の字句は草書体で判読できない。

阿寒湖荘に宿泊した折りに、病気のため死亡(釧路市の病院)した、茶道の裏千家家元を慰霊するため建立されたものである。(阿寒湖荘職員談)建立者、建立年いずれも不明である。

## 79. (文学の碑 8) 野口雨情歌碑



この碑は阿寒湖温泉、阿寒グランドホテル「鶴雅」庭園内の湖岸で、雄大な雄阿寒岳を背景に建てられている。創業五十周年を記念して、平成17年11月に建立された。

寄贈は鶴雅グループ株阿寒グランドホテル代表取締役社長 大西雅之で正面には「遠く雄阿寒 群立つ雲は 釧路平野の 雨となる」と刻まれている。

また、正面下部のプレートには、

「駒は嘶く 釧路の平野

鶴も来て舞ふ 春採湖

遠く雄阿寒 群立つ雲は

釧路平野の 雨となる

釧路いとしや 夜霧の中に

月もおぼろに ぬれて出る

知人岬の 波打ちきはを

啼いて渡るは 磯千鳥

山は遠いし 野原はひろし

水は流るる 雲はゆく

昭和15年9月上旬

野口雨情

連詩の一詩を 「ここに刻む」

と刻まれている。

碑は黒御影石が使われている。

(文責 佐藤照雄)